



# 善正寺だより

掲示板法話

## 人によって 法は伝わる

## 法によって 人は育てられる

今年九月縁あって鹿児島に参りました。空港から温泉説法の会場となる霧島温泉に向かう沿道には彼岸花が咲き揃い、あたかもお浄土への旅の道連れのような光景でした。ご案内頂いたのは、鹿児島出身のKさんという女性で、東京都内のお寺の門徒総代を勤めておられますが、父上の十三回忌の今年、長年勤めた幼稚園の退職記念に、故郷鹿児島で法話を催され、有縁百名の方々がお参りされました。法話会の後、お参りの方々が法の味を語り、聞きあう時間をもつなど、感銘深い集いでした。

鹿児島では、江戸時代薩摩藩の念仏禁制により念仏者に対する激しい弾圧が行われました。夜半洞穴の中で密かに念仏の会合が行われ、見つければ薪の上に裸で座らされ、大きな石を乗せられ自分を迫るむち打ちの刑などが行われました。後に梅原真隆先生が詠んだ歌碑と涙石が鹿児島別院の境内にあります。

「涙石涙にぬれて黙しけり まことの命ためさるる時」という歌です。

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733



本山にお参りしたことを咎められた千代女という娘は堂々と「京都の本山で有難いお念仏に遇わせて頂きました」と自白し、礎いしづけにされましたが、「私はお念仏のみ教えに遇い永遠の命を頂いている身、何も恐いことはありません」と言い残して二十一歳の命を終えたそうです。

「私自身、隠れ念仏の命の流れの中にある」と自覚されるKさんは常に釋徳清という法名を名乗り、聴聞に勤しみつつ様々な法座や法話を企画し、行動する念仏者として奔走されます。「人によって法は伝わる。法によって人は育てられる」と言われます。私は法話会の翌日、Kさんの実家のお手次寺や鹿児島別院にお参りする道すがら、激しい弾圧の時を乗り越えて熱き念仏者を輩出する磁石のような本願力のお働きを感じました。錆びた鉄のような我々凡夫が本願力の磁力により、生死の苦惱を超える道を今共々に歩ませて頂きましょう。

### ☆行事ご案内☆

## ◇お内仏報恩講

### 12月1日(土) 午前10時半



庫裏仏間にて2年前より午前中に開催、温かい白玉ぜんざい、昼食弁当用意。例年庫裏4間を開放して35名程のご参詣、お誘い合わせてお参り下さい。どなたでも大歓迎です!

◇秋勧進11月23日(金・祝) 午前8時より  
行事さん、総代さん、住職が手分けして巡回。ご協力よろしく!

◇絵手紙教室12月11日(火) 午前10時 (38回目)  
何時からでも入会OK、初心者大歓迎、小杉郵便局にも展示

◇キッズサンガ12月8日(土) 午後4時  
夕方5時の鐘つきは年中無休、除夜の鐘、元旦会もどうぞ!

◇除夜の鐘12月31日夜11時45分より開始  
ご家族お揃いで撞きに來てね、なんまんだぶ煎餅進呈

◇元旦会1月1日午前9時より本堂で正信偈、住職新春挨拶&法話、庫裏で年始座談、新年のスタートは家族揃ってお寺から!

◇一縁会テレホン法話 Tel 059-354-1454  
三重組5か寺の住職、坊守、若院が週替わりで3分法話

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧可。毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」大好評お寺の日常生活をホットに公開。開設10年1カ月で28万人以上の訪問者。お悩み相談も大歓迎! 即返信します。

◇新納骨堂: 後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい  
◇法事場所でお困りの方: 本堂使用可。寺にご相談下さい

### 写真アラカルト: 30年報恩講点描



ご本尊前荘厳

善正寺門徒展、お非時、法要前の語り、合唱

2018.11.02

2018.11.02 13:32

# 坊守スケッチ 寺報創刊300号を迎えて

# 300

ほうもり  
平成30年12月に『善正寺だより』が第300号を迎えます。きっかけは、私が本山から教師資格を頂き、記念に挨拶文を書いたことでした。まさか26年間毎月発行し続けるとは、予想していませんでした。これもひとえに支えて下さった皆様のおかげです。

寺報作成は寺で全て行います。配布は、門徒さんに在所分を協力依頼して、近辺の新興住宅地は、住職のバイク便と私の徒歩配達。残りは郵送します。紙面はB4版で、表面は住職の法話と行事案内、写真アラカルトで埋めまです。裏面は坊守スケッチと読者の寄稿欄、若夫婦の育児日記、ホットニュースで構成されます。B5版で私の毛筆手紙も添えます。

寺報を発送する時の心境は、娘を嫁に出す親の心境に似ています。読者の反応が唯一の励みになります。

善正寺だよりの特徴は、多彩な書き手です。女性目線や生活感に溢れています。「親しみ易い」と言っておさる人もいますが、仏教的にはお粗末です。私も坊守スケッチを担当して、お寺の生活をありのままに披露します。

ところで10年以上前からSNSが普及して、紙媒体の新聞や本は若い世代から敬遠されがちになりました。そこで寺報をお届けできない人にも読んで頂く手段として、善正寺の木一

ムページを作成しました。トップ画面から過去1年分の寺報を自由に閲覧できます。同時に『住職と坊守のつれづれ日記』というブログも立ち上げ、毎日更新しています。

毎月の寺報発行が26年間、毎日のブログ更新が10年間、目下継続中です。これが私達の情報発信の歩みです。まだ会ったことも無い人とも交信し応援して下さいます。私は毎日のブログネタ探しに、五感を働かせ感動を求めて書き留めています。寺報とブログによって、私は日々丁寧に生きて、自分の物語を綴ることの大切さを学びました。これからも寺からの情報発信を継続するように精進いたします。

## カンパありがとう!

栗本洋子様、荒木エイ様、TH様、服部隆様他よりお志、切手頂戴しました。

## 寄稿

釋清風

信濃路は山の間にある刈田かな  
千川川ひかりくねりて秋高し  
松手入れ青空少し広くなり

敗荷やばいや独り佇む老いが影

(\*敗荷とは破れ蓮、蓮の葉が朽ちていく事)



☆若院夫婦の『青自な毎日』その48  
報恩講初日、子供達はそれぞれに登校、登園。姿が見えないので皆さんから尋ねられ、登校した旨伝えると「大きくなったねえ」と感慨深い様子。

午後、帰宅した子供達がお客様に「ご挨拶。一年ぶりにお会いする埼玉のKさん御夫妻から「お兄ちゃんとお姉ちゃんの顔になったね」と言われました。そして何やら長男に手渡されました。それはオレンジ色の冊子で、表紙には『りょうじくんの ほうおんこう

ものがたり』と書いてあります。昨年の報恩講での出来事を物語にして製本して下さったものでした。その本に長男が挿絵を描けばオリジナル絵本の出来上がりというわけです。それを受け取った長男は、脇目も振らずに机に向かいその挿絵を描いて、一目散にKさんのところへ持って行き披露しました。素敵なサプライズの贈り物に、親子共々大喜びしました。

夜の席では、お琴の先生方を長男は得意のお喋りでもてなし。聞いているこちらはハラハラ。でも演奏が始まると一緒に歌いました。法話の時も、長男は講師さんの質問に積極的に参加し、小学生らしい回答。先生には褒めて頂きましたが、親としてはドキドキハラハラの連続。でも中々きちんとお話を聞いていると感心もしました。

今年の報恩講で子ども達のお参りに対する姿勢が、成長と共に大きく変化することに気づきました。これから

も沢山の人と出会いお育て頂きますようお願い申し上げます。(若坊守)

## ホットニュース

※報恩講初日には遠方より多数の方がご参詣頂き有難うございました。埼玉のKさんご夫妻は日帰り高速ツアー。津市の念仏の友、作品展の趣味仲間等お非時終了後の空白時間帯に、本堂で待機する人の発案で、絵本読み聞かせ、童謡、病気体験談、人形制作法など紹介が続きました。退屈な時間が一変して、和やかな場になりました。とかく僧侶主導の受け身型法要が一般的ですが、余白時間を利用した参加型法要に、初めて新鮮な感動を受けました。夜席にはお馴染みの琴の演奏で皆さんと歌いました。ご参詣下さった皆様に深く感謝申し上げます。

※報恩講期間中の門徒作品展で、本堂南脇に初出品の創作人形が大好評! 働く老人の素朴で人間味ある表情に魅了。優しく温かい気持ちになりました。作成者は「門徒の服部典子さん夫妻。賞賛の声が数多く寄せられました。

## ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第三百号をお届けします。長らくご愛読賜り、有難く感謝申し上げます。◇二十五年前、長男が得度、坊守が教師資格を頂いたのが契機、「蓮如上人の文書伝道に学ぼう」という時期の創刊。◇中身はとてつもないながら多様な情報発信に努めて参りました。読者の皆様の支えあってこそと深謝。今後とも宜しくご愛読をお願い申し上げます。合掌。

いよいよ平成最後の師走を迎えました。同時に「善正寺だより」が創刊から第300号を迎えました。当初これほど長く続けられるとは予想すらしていませんでした。これも支えて下さった皆様のおかげです。26年前二人の息子は中学生、先代住職が往生し、兼業する現住職の代理を勤める為に僧侶資格を取得しました。出番は多くありませんでした。が挨拶文のつもりで始めた「坊守スケッチ」が寺報の裏面を飾り、表面は住職の担当というスタイルが出来上がりました。いざスタートすると中断できなくなりました。一番大変な時期が私の母の介護時代。月末になると頭の中が空っぽで悩みました。切羽詰まった状態をありのままに書くくと、意外にも反響が大きくて、介護で苦勞している読者が多いことが分かりました。それから私には法話はできないから坊守の視点を通して生活感溢れる記事を書くこうと努めました。インターネットが普及した10年前からホームページとブログを立ち上げました。私の仕事量は何倍も増えましたが日常生活の観察眼は磨かれ、また近年寺を取り巻く環境は、年々厳しくなっています。しかしどんな時代になっても悩みを抱えた人はいます。寺からの情報発信によって、親しみ易い寺、気楽に悩みを相談できる寺になりたいと思います。今後とも寺報とブログは継続します。善正寺だより300号はほんの二里塚、これからもご協力とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

合掌

善正寺坊守 拝

平成三十年十二月